

2025

SUPER GT  
RACE REPORT

Rd.8

11.1 [sat] - 2 [sun]

[place] モビリティリゾートもてぎ (栃木県茂木町)

[weather] [sat] 晴れ / [sun] 曇り

[spectators] 50,000人 ([sat] 18,000人 / [sun] 32,000人)

# MOBILITY RESORT MOTEGI



Rd.1 OKAYAMA >>> APR 12-13

Rd.2 FUJI >>>>>> MAY 03-04

Rd.3 SEPANG >>>> JUN 27-28

Rd.4 FUJI >>>>>> AUG 02-03

Rd.5 SUZUKA >>>> AUG 23-24

Rd.6 SUGO >>>>> SEP 20-21

Rd.7 AUTOPOLIS > OCT 18-19

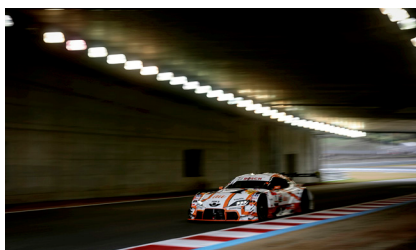
Rd.8 MOTEGI >>>>> NOV 01-02

TOM'S



ライバルの猛追を振り切り、最終戦もてぎで今季3勝目を挙げる。  
史上初の GT500 クラス3 連覇達成!!

2025 AUTOBACS SUPER GT Round8 MOTEGI GT 300km RACE GRAND FINAL が11月1日(土)、2日(日)にモビリティリゾートもてぎで行われた。#1 au TOM'S GR Supra (坪井翔/山下健太) は、予選2番手スタートから1周目にトップに立ち、そのまま首位をキープしてRound1 岡山、Round4 富士 Race1 に続いて今季3勝目を挙げ、GT500クラス史上初となる3年連続シリーズチャンピオンに輝いた。



1

TGR TEAM au TOM'S



SHO TSUBOI 坪井 翔

KENTA YAMASHITA 山下 健太

## Rd.8 Result

Qualifying **2** 位 >> Driver Standings **1** 位  
Race **1** 位 Team Standings **1** 位

Qualifying 1 山下 : P1 / 1'35.675

Qualifying 2 坪井 : P2 / 1'35.943

Race  
ファステストラップタイム 坪井 : 1'38.999  
山下 : 1'40.424

## QUALIFYING

天候：晴れ／気温：22℃／路面温度：24℃



## 僅差でポールポジションを逃すも、 チャンピオン獲得に向けて 視界良好な2番グリッドを獲得。

前日の金曜日は強い雨に見舞われたモビリティリゾートもてぎだったが、土曜日午前の公式練習時には天候が回復し、セッション序盤からドライタイヤを履いて周回を重ねた。最終戦は全車ともにサクセスウェイトが課されないため、1号車本来の速さが期待される一方で、公式練習では思うようにタイムを出せず苦勞する場面もあった。しかし、チーム全員が諦めずに対応し、予選に向けて速さを引き出していった。

午後に行われた予選では、Q1を山下が担当し、ライバルに0.2秒の差をつける1分35秒675を記録。トップでQ2へ進出を果たした。続いて坪井がマシンに乗り込み、ポールポジションを目指してタイムアタック。1分35秒943を記録したが、トップタイムには及ばず2番グリッドとなった。ポールポジションを逃した悔しさはあるが、チャンピオン獲得という最大目標を達成するために、しっかりと好位置につけた予選だった。

## Race

天候：曇り／気温：20℃／路面温度：22℃

## 迫り来るライバルから首位を守り、 今季3勝目をマーク。 3年連続GT500王座を掴む。



曇り空のなかで始まった決勝レース。2番グリッドから優勝を目指す1号車は、ここ数戦の流れとは異なり、坪井がスタートを担当した。スタート直後からトップの車両に仕掛けていき、4コーナーでオーバーテイク。首位に躍り出ると、そのまま後続を引き離す快走をみせて、一時は5秒以上のリードを築いた。

23周目にピットインし、山下に交代。チームも迅速なピット作業で1号車を送り出し、トップをキープ。しかし、周回を重ねるにつれて、後続のライバルが接近。後半の30周近くにわたって緊迫した接近戦を繰り広げたが、山下は最後までトップの座を明け渡すことなくチェッカーフラッグを受け、今季3勝目を飾った。

同時に2025年のGT500クラスシリーズチャンピオンも決め、史上初の3年連続王座に輝いた。坪井もGT500クラス初の個人3連覇で通算4回目、山下は通算3回目のシリーズチャンピオン獲得となった。

TOM'S



勝って終わりたいという  
気持ちが強かったです。

ドライバー 坪井 翔

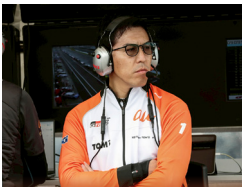
レーススタート時点では2位以上でチャンピオン確定という条件だったので、無理をして抜かなくても良い状況ではありました。しかし、勝ってシーズンを終えたいという思いがあったなかで、予選は少し悔しい結果になってしまったので、なんとか追い抜きたいと思っていました。チャンスは1周目しかないと思って、スタートからものすごく集中して、ライバルの前に立ち、リードを築くことができました。自身4回目のチャンピオンは嬉しいですし、この環境でレースをさせていただけることがありがたいです。



全員の力で獲った  
チャンピオンです。

ドライバー 山下 健太

これだけ接戦のGT500クラスで、頭ひとつ抜け出る結果を出しているチームに、自分がいさせてもらっていることに感謝したいです。決勝では坪井選手がトップでバトンを渡してくれて、それを守らなければいけなかったのですが、選択したタイヤのことを考えるとペース的に厳しくなるかもしれないと思っていました。30周近くライバル2台が真後ろにいる状況のなか、仮に抜かれたとしてもチャンピオンになれることは分かっていましたが、最後は勝って終わりたいだったので、頑張ってブロックしました。



チーム監督 伊藤 大輔

シーズン中盤が苦しくなることは分かっていましたが、最終戦も思いのほかプレッシャーがかかる状況となりました。最後まで気が抜けない展開でしたが、スタートで坪井選手がトップに立って、最後は山下選手が守り抜くという作戦を立てていました。その通りにはいきましたが、楽な展開ではありませんでした。今年もメカニックが頑張ってくれて、毎回素晴らしいクルマを用意してくれたことに感謝していますし、1号車に関係してくださった皆様のおかげでチャンピオンを獲得することができました。



チームオーナー 館 信秀

本当に「素晴らしい！」の一言に尽きます。坪井と山下はすごいドライバーだと、あらためて実感しました。終盤はライバルが接近してきて気が抜けない状況でしたが、私はそこまで心配はしていませんでした。とはいえ、2位で終わるよりは勝ってチャンピオンを決める方が良いので、この結果には大変満足しています。

3年連続でチャンピオンというのは、今までなかったことなので大変嬉しいですし、支えてくださったスポンサーの皆様に感謝したいです。TOM'Sとしてはスーパーフォーミュラも残っていますので、この勢いで引き続き頑張っていきます。

au

KDDI

アヲキヨ

ZENT

GR TOYOTA  
GAZOO  
RacingTGR-DC  
TGR Driver Challenge Program

TGR-D

BRIDGESTONE

Entowa's  
NUSHDRY ZERO  
ドライゼロ  
ALC 0.00%Yc  
Yi-Chiu Group

バンテリン

Happiness in Your Life  
広島トヨペット

Deloitte.

MASEKI  
GEINOSHA

Achilles

TAMIYA

QREX  
QUANTUM RACING EXPERIMENT豊通テック  
TEC

Valer

uchino

bryza

HR  
HYTECH RESINEDIFICE  
CASIO

P&amp;S

Miyazaki

JAPAN  
TRUCK SHOW  
2026LHG  
Logistics Handling Center

BRIDE

FUKADEN

S&D  
TAMA GROUP

HRX

PORTS.CO.JP

ThreeBond

Mizuno

ENKEI

both.

KVA

MECHANIC WEAR